

第1回長浜市総合計画審議会 要点録

1 日 時 令和7年4月22日（火）10：30～12：10

2 開催場所 3階 特別会議室

3 出席者 ○委員

岩寄会長、林誠副会長、磯崎委員、清水委員、瀧澤委員、立花委員、
田中委員、田邊委員、中川委員、林智子委員、細川委員、松井委員、
水上委員、吉田委員

○市出席者

浅見市長、未来創造部 和田本部長、野村次長
政策デザイン課 手崎課長、岸田課長代理、山崎係長、五十嵐主査

4 次 第

（1）開会

（2）市長あいさつ

- ・本市では、まちづくりを進めるうえで、長期的な展望に立った「めざすまちの姿」を明らかにし、その実現に向けて総合的かつ計画的に行政運営を行うための指針として、「長浜市総合計画」を策定し、この総合計画に掲げる本市のめざすまちの姿「新たな感性を生かし みんなで未来を創るまち 長浜」の実現に向けた取組を日々推進しているところである。この総合計画が令和8年度末をもって終了することから、今般、次期の総合計画を策定することとしている。
- ・皆さんもご存じのとおり、昨年4月に地域の持続可能性について分析した報告書が人口戦略会議から公表された。本市は消滅可能性自治体には該当しなかったものの、若年女性人口が大きく減少することから、今後の人口動態は非常に厳しいものであると予測されている。消滅可能性自治体の一步手前といえる状況であり、1つの課題提起ではあるものの、強い危機感を感じている。
- ・先月策定した本市人口ビジョンでは、2065年（令和47年）に人口規模73,000人の維持と人口構造の若返りを目指すとして長期的な展望を示した。将来的な人口減少、少子高齢化は避けて通ることはできないが、次期総合計画は、持続的なまちづくりを進める上で、市の新たな将来像を描く、極めて重要な計画であるので、今回お集まりいただいた委員の皆様をはじめ、幅広い世代の市民の方や地域内外で活躍されている活動家など、あらゆる英知を結集させて作りあげていきたいと考えている。そのためには、皆様と将来像を共有し、議論を重ねることが不可欠である。
- ・本日、この後、諮問させていただくが、諮問書の中に、基本的なコンセプトとなる「長

浜市の未来図」を添付している。未来を考えるには、過去の歴史をしっかりと振り返ることが大切であり、本市の歴史は自治の歴史と言ってよく、最大の特長でもある。本市のまちづくりには、自分たちが主体的に関わり、まちを良くしていこうという高い市民力、この精神こそが、私たちのまちの背骨ともいえる大切なものである。

- ・人口減少でまちの力が縮小する中で、外の意見や力を呼び込み、市民の力と外部の知恵を結集した「開かれたシビックプライド」を軸とすることが、未来を創るカギであると信じている。そのうえで、これからわたしが伸ばしていくべきことを「7つの輝き」として位置づけ、この総合計画審議会をはじめ、皆様と共に磨き上げていきたいと考えている。そして、これらを織りなしハーモニーを生み出すことで、新たな輝きを見出ししていきたい。
- ・今回の総合計画の策定については、来年9月の議会提案を目指している。限られた時間の中ではあるが、委員の皆様方には、将来の長浜市の夢と魅力を共有できる総合計画となるよう、忌憚のないご意見と慎重なるご審議をお願いする。

（３）委員委嘱及び自己紹介

（４）会長及び副会長の互選

○会長に岩寄博論委員を、副会長に林誠委員を選出。

（５）会長あいさつ

- ・総合計画審議会、通称長浜改革会議ということで、この先、人口減少で長浜も厳しい局面が予想されているが、実際の危機が訪れるのはもう少し先の2060年頃の人口7万人のとき、その危機が訪れる前に、このまちをしなやかで強く明るい未来があるまちにしていくということが総合計画の12年計画になろうかなと思うので、微力ながら進行を務めさせていただく。委員の皆さんの方にも忌憚のないご意見をいただくとともに、進行の方にご協力をお願いする。

（６）会議の公開について

○本会議を「公開」とすることに決定。

（７）諮問

- ・長浜市総合計画の策定にあたり、下記のとおり貴審議会の忌憚のないご意見、ご提案を賜りたく、ここに諮問する。
 - ① 別添「長浜市の未来図」を基本的なコンセプトとして、将来の「長浜市がめざすまちの姿」について、ご意見、ご提案を求める。
 - ② 策定する長浜市総合計画について、どのような表現や手法等で市民等に対して共感を得ていけば良いか、ご意見、ご提案を求める。

(8) 議事

以降、会長による議事進行

①長浜市総合計画の策定に向けて

②次世代起点デザイン方法論による政策形成

③意見交換・感想

(委員)

- ・ 2050年における自分たちのことや、さらに先の子供たちが大きくなった時のことを想像することは本当に刺激的で新しい考え方だと思う。
- ・ 人口が減少し子どもも減るなかで、曳山まつりをどう持続すれば良いのか、現場では曳山を動かすことだけに精一杯で将来のことを考えるのはなかなか難しい。そうした中、自分たちの祭りであるので、自分たちで考えて、変えたくない部分は変えずに、変えられることは変えることを若衆で話し合ったりしている。
- ・ 春日山は、女性が山を引くことを初めてした山組である。今後女性が少しずつ曳山に関わることが増えてくると思う。私たちも少しずつ変えていく部分は変えていく、変えたくないことは変えないということを少しずつ考えていかなければならない。
- ・ 若者は都会に憧れ、自分がやりたいことに興味持つ。今は東京にいるけど、いつかは長浜に戻りたいと思う方はたくさんいる。そういった方が長浜に帰ってきて良かったなということを私たちも発信して、長浜の魅力的な事業や取組ができたらと思う。長浜には様々な市民参加型の事業があり、私も都会にも負けないような優れた作品を作り、魅力あるまちづくりの一助となればと思う。

(委員)

- ・ 資料5を見て、デザインがとてまかつこ良く、内容もとてもわくわくした。
- ・ 万博のインクルーシブアテンダントとして働いているなかで、世界中で昔から続いているものを継承していくことはとても良いと思う。
- ・ 現在、大阪に住んでいるが、出身は浅井町で、今でも長浜行ってくるというぐらい田舎の地域であり、眺めはとても広くて良いが、都会と全く違うと感じる。積雪量も異なる。市街地はどんどん豊かになるが、浅井の中でも田根地域の人口は減り、過疎化が進んでいる。その差が生まれないためにどうしたら良いのかと思ったとき、大阪と滋賀とでは差はあるけど両方良い面もあるので、そういう循環が長浜市の中で生まれると良いと思う。
- ・ 市内に健康寿命を延ばす運動する場所が少ないと思う。私ができることとしては、あまりしょうがい者スポーツと触れ合う機会が少ないので車いすバスケのイベントを何とかできたら良いと思う。

(委員)

- ・ 先ほどの会長から話があった「祭りは残したいけれども父母がやっている手間がかかる作業を減らしたい」という若者の声が、とても本質を捉えていると思った。デジタルに

対して抵抗感を抱かれる方に、その利便性をしっかりと教えるであつたり、導入までのサポートを充実させたりすることで、これまでのしがらみをなくしていけるのかなと話を聞いて思った。

- ・こういった視点を総合計画に盛り込んでいけるようにアイデアや意見を出していきたい。また総合計画の資料を小学生や中学生に伝わるような言葉に翻訳し、しっかりと届けるという手法を考えることも必要であると感じた。

(委員)

- ・130人ぐらいの規模の会社で、2020年ぐらいから県外の優秀な学生を受け入れていこうということで新卒採用に力を入れている。毎年5人から10人ぐらいの県外の学生が長浜市に転入してきているが、新入社員の地元が県外であるということで帰ってしまう可能性があり、どうすれば定住してくれるのかを考えると、結婚して市内で子どもを産んで家を建てるということで長浜市を離れないことになるが、どうしようかなとなったときに、長浜市内では出会いの場が少ない。また、子育てや家族にイメージが湧かない。こういったことを社員が言うのだが、どうすれば良いのかこの機会にできることを考えていきたい。

(委員)

- ・農業をしており、会社には6名の若者が来ている。どうすれば従業員が来てくれるのかなと、農業の高校や大学に出向いて募集をかけていたところ、会社の一番の強みは何かと問われたときに、DXに力を入れていると答えた。衛星から田んぼを見たり、自動操縦したりと、とても充実していて楽しそうだと言われた。こういった面白味をしっかりと出せるような会社づくりをしている。また食育にも力を入れており、子ども食堂には今までお米を持って行ったりする。そういったところで、どこのお米なのかを言ってもらい、知らない人も来てくれる会社にしていきたいと感じた。
- ・滋賀県には遊ぶところが多いと言われる。夏は琵琶湖に行き、冬はスノーボードで奥伊吹や余呉に行くと良く言われる。また交通の便もすごく良い。しかし、情報発信をもう少ししっかりとしたほうが良いと言われることもある。私もどう発信していけば良いのか分からないが、若者が定着していけるような地域にしていきたい。

(委員)

- ・「情報発信」という言葉にとっても共感する。京都に近い私達にとっては控えめで、厚かましくないのが上品でとても美德だという、どうせ長浜だから、どうせ滋賀県だからというようなロジックがあり、長浜だからというような言い方をしてしまう場面がある。しかし一方で長浜には魅力もある。自然や曳山文化、歴史もある。インフラも整っており、交通網も福井京都東海、様々な方面に行ける。さらに地震も少ない。こんな素晴らしいところを発信しないと卑屈な精神というか、新たなところで少し控え目になってしまふところが非常に残念である。
- ・会社には揃えている商品をお客様に伝えなくては、その商品はないのと一緒にあり、お客様にお伝えせずに置いておくだけでは、やってないのと同じであると従業員に指導して

いる。こんなに素晴らしいまちを厚かましく発信していきたい。

(委員)

- ・ 正直人口減は分かっていたはずだけど、この資料を改めて見て頭の中が混乱状態である。南長浜まちづくりビジョンのペルソナはすごく面白くて分かりやすいなと思った。私が80歳のときのことを考えて、この計画を考えないといけないなと思いつつ自身の考えの浅はかさを痛感した。
- ・ 関係人口を増やすことやビジョンを共有する人を増やすことなど、固い話ではなく楽しい未来をみんなで作っていくような話し合いをしていきたい。

(委員)

- ・ 今日参加して、まさしく未来を見る会議だと実感した。子どもたちと接していて感じることは、結婚・出産・子育てに対して良いイメージを持っている子どもがほとんどいいことである。それは周りの私たち大人の責任であり、私たち自身が、もう一度、長浜ってとても楽しいところということを、もっと実際の姿として見せていかなくてはいけないなと思う。
- ・ 一度、長浜から出ることは良いと思っていて世界感を広げてまた戻ってきたい、また長浜で暮らしたいと思えるまちになったら良いと思う。
- ・ 子どもたちは現実、私たちが信じられないようなネットの中の世界で生きていて、実は犯罪に自分も関わっていたと聞かされたときに子どもを犯罪者にしている大人もすごく増えていると感じている。
- ・ そんな中で長浜は、自然や人との繋がりが豊かなまちであると思う。高齢の方も力を持っているので、何かあり余っている力をみんなでしっかりと連携して生かしていけたら良いなと思う。
- ・ また、この計画が完成したときにどうやって市民や子どもに伝えていくと良いかと思ったときに、自分が関わっていることに対してゲーム感覚で、なんか楽しいなって思える方法で伝えることが大事だと感じた。

(委員)

- ・ 長浜に移住して、本当に長浜は住みやすいところだと思う。琵琶湖があって山々に囲まれていて自然に恵まれている。長浜は買い物や子育てをするにしても良いところであり、交通の便も良い。
- ・ 人口減少はどの地域においても課題になっており、私自身が仕事で関わっている様々な市町村でも大きい課題になっている。そういった中でお互い学び合えることもあると思う。
- ・ 長浜を広域的にとらえたときに、人口が減っている集落もあるが、減っていくが故にスペースが生まれ、逆にそのスペースを活かせることもあるのかなと、発想を転換させることで、あまり悲観にならなくても良いと思う。
- ・ 本当に未来を見据えたときに、長浜だけというよりも、世界を見ながら長浜の良さをどうやって自分たちが理解しながら、周りの人に発信してアピールしていけるか、いろん

な選択肢がある中でチャンスとしてつかめるような長浜を描いていけると良いと感じた。

(委員)

- ・資料 5 内のツボのインターベンションポイントで思ったことは、こういうツボを見つけないときに、より複雑により情報をたくさん集めること、できるだけ多くの声や情報を集めてごちゃごちゃさせて、より混乱させていくことで、ツボが見つかると思っ自分の中で思っている。今回の議論も時間の限りはあるが、より複雑な情報や、ごちゃごちゃした情報をたくさん市民の方々から声としていただいて、そのおかげで湧いてくるもの、発見できるものになると良いなと思う。
- ・質問が 2 つある。総合計画の策定に向けての資料の中で基本計画がなくなって基本構想と個別部門計画としたときに、この基本構想を策定した後の 10 年の中でこの構想はどのように取り扱われていくのか。柔軟に変更していく視点っていうのがないと個別部門計画優位になってしまい、資源が分散したり、そのツボが見つからないまま資源の争うだけのまちづくりになることはもったいないので、その部分のコンセプトが知りたい。
- ・諮問書 8 ページに具体的に大きく 4 つの地域っていう記載がある。この 4 地域に決めてしまうと、ここに線が引かれてしまって不安が生まれてしまう恐れがある。テーマ別によって複組成があると思う。その地域に住む方や業界の方のコンセンサスがあって初めてエリアとか地域が生まれてくるので、今後その計画の発信だったりメンテナンスのときに住んでいる方やその業界にいる方が自分たちのエリアに関して愛着が持てたり、自分のエリアだと信じられたりすると良いなと思う。

(委員)

- ・計画策定にあたって、まず 1 点目は、あくまでも人を主役として考えることが大切である。人口動態を分析して将来をどうするとかっていうことは基礎的な資料として非常に重要なことだと思うが、それをまちとして捉えるだけではなくて、人を主役として考えていくことが大事である。この長浜が誰もが自分らしい未来を描けるまちになるということを考えており、年齢や性別、病気、しょうがいの有無に関わらず、誰もが生涯を通じて自分らしく生きられる自分らしい多様なコースを選択し、居場所や出番がある、そんな社会になれば良いと考えている。そのためには、魅力ある産業が根付いていて、いろんなコースを選択できるような働く場があるということが非常に大事であると改めて感じた。
- ・2 点目は、策定過程において、様々な市民参画をということがあるが、もちろん意見をいただくことは大切であるが、まずは市民の皆さんに関心を持っていただくことが非常に大事だと思うので、地域ごとに例えばワークショップを開催するとか、いろんな方法で市民の皆さんの関心を高めることを、ぜひ取り組んでいただきたい。
- ・3 点目は政策形成のあり方である。総合計画を策定しても、それに基づいて政策の見直しが行われ、実現に向かって歩んでいかないといけないので、政策形成がどうあるべきかについても、この審議会の後半の議論として取り上げ、ぜひ答申の中に盛り込めるようにしてはどうかと考える。

(委員)

- ・木之本に住むかつ会社に入ることにより二重のハードルがあるのかなと思っている。入社後、社員がどのように活躍してもらってどのような人生を歩むのかなということまで想像して人を採用している。
- ・長浜に対して、自分がそこに住んで、活躍できる場所があることが大事かなと思っており、この総合計画を策定した上で、この計画を知り、自分が長浜市に参画することで活躍できる場所が1つ2つ増えたり、活躍の場に人が集まることで周りの人もその活躍で何か自分が便利になったり等、長浜市が発展していくと良いと感じた。

(副会長)

- ・学生を相手にしている立場からすると、ペルソナを考えて学生を見たときに、世界が両極端で、一方は簡単にスマホを触ったら世界に繋がる。でももう一方で隣にいる人とながらないというとても両極端な環境にいると思う。なので、ペルソナっていうのをたくさん想定してそれぞれに政策を打っていくことも大切だと思う。いかに長浜市内でまとまった豊かな生活ができるような施策をしていくことが市役所の役目だと思うので、ぜひ議論をしていけたらと思う。
- ・もう1つは、1つの政策を考えるとしても、具体的に実行するときに有効に働けるような感覚で仕組みを作っていけると良い。夢物語にならないような具体的な政策のアイデアを出せると良いと思った。

議事終了、会議進行事務局へ

(9) その他

- ・第2回～第4回審議会の日程調整。
- ・本会議の要点録を市ホームページに公開する。

(10) 閉 会

以上